

ヨシちゃんのこと ひとりごと



大切なことは 続けること

先月7日(日)「第7回駅伝ライブ(報告)下枠にあり」は盛況裏に終り、当日多くの皆様の募金も「ユニセフ」に送金いたしました。

このイベントは2004年12月26日のスマトラ沖地震被災者救援募金を募るため「NPO 法人音の風」を中心にミュージシャン10ユニットと相談し発足したものです。

当社二階の二つのスペースを交わり「ノーギャラ」で手弁当です。イベントで集まった募金は「日赤」救済支援金に届けました。

後日の反省会で折角のイベントだから毎年やろうと声が出て本年度7回目になり、二つスペース交互に使い途切れ

なく演奏を続けるのでイベント名称を「駅伝ライブ」とし中国四川地震や中越地震募金をへて現在は「ユニセフ・ハンド・イン・ハンド募金」に協力をしていきます。

回を重ねる毎に、参加者やご協力者も増え、今やプロな方々やセミプロのミュージシャンも出演下さいました。募金額も前年を大きく上回りました。有難いことです。

街中の小さな酒屋の会社のスペースで続けてきた成果だと思っております。

この「とんからりん」は14年で135号。「朝粥食べておしゃべり会」は今月で72回。「こころ坂・楽々落語会」も来月で25回です。当初は苦労しましたがやり続けてどうにか軌道に乗った感じになりました。

子供時代、祖母に常に「お前は三ヶ日坊主だ」と言われる程アキラメの早い子でしたが、何時の間にか「シッコイ人間」に変ってしまいました。多分、過ぎ去った年月、ご縁があつて出会った多くの人たちから「継続は力なり」と



「ユニセフ(17/7)協賛 第7回 駅伝ライブ」報告

皆様のお陰で成功裏に終えることが出来ました。厚くお礼申し上げます。第7回駅伝ライブは、お客様・ミュージシャンの皆様・スタッフの皆様合わせて、600人を超えるイベントに成長しました。参加人数・募金額とも過去最高、多くの皆様の協力に改めて感謝申し上げます。有難うございました。下記に今回の収支を記載いたしました。

参加ミュージシャン数	14ユニット
チケット販売	1113人 453枚
店頭募金額	226,800円
寄付(個人・団体・ミュージシャンなど)	58,188円
収入合計	92,050円
支出経費(音響・印刷・通信費など)	376,738円
差引金額(募金額)	122,075円

「駅伝ライブ」の収益金は今は「ユニセフ・ハンド・イン・ハンド」の募金に送金いたしました。この募金は開発途上国で貧困で年間80万人の幼い子供達が簡単に予防できる病気で死んでいます。

「教え」られたことで変れたのだと思います。

祖父が97年前創業した酒屋、後三年で100年ですがそれは通過点、チョット矢先に欲張ってもう25年頑張り続けたいと思っています。

左の写真は駅伝ライブ当日の写真です。

- 1 近所の昭和保育園児のひまわり組の可愛い声で開会
- 2 階七条通側のギャラリ集いで演奏する、人気上昇中のフラリーパッドの演奏ファミマ店の奥の「楽々ホール」で
- 3 シーナきのはらさん、1階ファミマ店頭で音楽で

募金集め。第一回からご協力の「沖縄音楽のなま」の演奏で盛り上がる。ファイナルは「ゲメ」さんご澤田好宏さんのリードで全員合唱で締めくくった。

アット言つ間に

師走です！

2010年

アット商品ベスト30

- 1位: 食べるラー油
- 2位: 3D映画
- 3位: スマートフォン
- 4位: プレミアムロールケーキ
- 5位: iPad
- 6位: ポケットドルツ
- 7位: 低価格「田」電球
- 8位: チンしてこんがり魚焼き
- 9位: ハリナックス
- 10位: 一杯でじじみ
- 70個分のちから
- 11位: 平城遷都1300年祭
- 12位: アタックネオ
- 13位: ルルドマッサーシ
- 14位: Pocket WiFi
- 15位: 怪盗ロワイヤル
- 16位: 鮮度の一滴
- 17位: エアマルチフライヤー
- 18位: シグソーパスル
- 19位: ZOXシリーズ
- 20位: 共同購入クーポン
- 21位: フリクションボールソック
- 22位: キリン年後の紅茶
- 23位: エアフレックソティ
- 24位: BigAmerica
- 25位: もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの「マネジメント」を読んだら
- 26位: 香る防虫剤
- 27位: JANANソー ス焼きそば
- 28位: 角ハイボール
- 29位: ミルミル
- 30位: アナログトイ

オリコン 11月2日より

京都&東山
ぶらりピカリ

26

音羽山清水寺・前回清
子安の塔 水寺本
堂の南

谷(錦雲溪)を源とする音羽川の続きとして清水寺境内にある子安塔を書くことになる。

この塔は江戸時代初期建立の重要文化財。本堂の南谷を隔てた丘上に建っている。高さ約15メートル、椽皮葺きの軽快な三重塔である。

各重とも軒は二軒繁垂木(ふたのきしげたるき)とぐみは三手先であるが珍しく尾垂木を設けず、縁には組高欄があり、子安観音と千手観音を祀り、名前の通り安産に大きな信仰を集めて来た。

聖武天皇・光明皇后の祈願所と伝説されるが創建時期は判っていない。寛永期の再建で、仁王門の左手前に建っていたものを明治末年に移築した。その前は仁王門の外に泰産寺があり、子安の塔はその境内に建っていて産寧坂の名の由来はそれとされている。

又、源義経(牛若丸)の母常盤御前が、今若・乙若・牛若の三人の子どもを連れて、吹雪の中、京を逃れる際、千手子安観音に子ども達の無事を祈願したと伝わります。祈願し、常盤たちは縁戚のい



清水寺子安の塔



子安の塔から見た清水舞台

る大和の宇陀郡(うだのごおり)を屈指したとか?。

その後、鞍馬寺に預けられた牛若丸が五条大橋で笛を吹きながら歩いてい

ると、その腰の見事な太刀を奪わんとした武蔵坊弁慶に挑みかかられるが、欄干を飛び交う身軽な牛若にかなわず、弁慶は降参した。弁慶はそれ以後、牛若(義経)の忠臣となった。それは小学校唱歌になつた程有名な話。何故五条大橋かと考えると幼い時、母の常盤がお参りした子安の塔に向かう道中の出来事かも知れない。平安時代の五条通は今の松原通であるところから

そうと想像もできる。今、子、親を殺す事件が頻発。子が生みの母を慕う心根は現代も平安時代でも変わらないとわが身に照らして思いたい。親の心も同じだったろう。

唾液(つば)は 働きもの (つば)は消

化液で大人が一日に0.5〜1リットル出すそうですが年をとると少なくなります。最近では「涎掛け」をしている子供は多く



有りませんが、私は「涎たれ」で幼稚園児までつけていました。加齢だけでなく

緊張したりすると唾が出ず口の中がカラからになる経験は何方もあるでしょう。唾は歯の掃除したり、歯が酸性のもののを防ぐ役もする優れものなのです。幼児のころ怪我をすると祖

母は「舐めておき」とよく言います。唾には抗菌作用もあるようです。「キタナイ!」など言つくとバチが当たります。最近では「唾」では傷は治りにくくなりましたが、唾の所為でなく年令からでしょう。

だからといって「唾」軽視してはけません。唾に「パロチン」というホルモンが含まれていて「老化防止」に役立つとの研究結果が出ています。舞台役者や落語家は良く声を出し「唾」をだすから元気で長生きをする人が多いのです。

ルパン島帰還兵士「小野田寛郎さん」は88歳の今も元気でご活躍と聞きます。「ご帰還後幾度か「インタビュ」

でお話されるとき何時も口の端に唾が溜まっているのが見えました。良く噛み、良く喋り、美味しいものを見て「唾」を出せば元気で長生き出来マッセ。

出来上がった樟葉駅を通過する特急電車



(連載)京阪電車

走り続けて100年

23 沿線開発は各所で進みました。古川橋・門真間で見られた蓮根畑も見られなくなりました。中宮、香里団地等からの乗客は枚方市始発電車で満員となり、寝屋川市からは積み残しが出る状態。ダイヤ乱れる一方でした。そこで考え出されたのは扉の数を増やし、閑散時使用しない扉を閉切った後に天井収納の座席を降ろす装置でした。扉車500系は日本最初です。これでラッシュアワーもスムーズに

24 樟葉駅周辺は遊水池と言われたところで、洪水になると舟橋川を逆流した淀川の水で満たされました。旧駅近隣住宅の納屋や縁側の軒先には小舟が吊り下げてあり、洪水となるとそれで行き交いしたとの話です。もちろん電車の線路は水漬かりで運転休止となりました。線路沿いの京阪国道も大水の度に通行止めとなるため、山手に移設されました。それに沿って男山団地が建設されることになり、京阪電車はそのアクセスを担当することになりました。

25 男山団地建設を機会に、「樟葉ローズタウン」の町づくりに乗り出すことになりました。玄関は新樟葉駅です。列車の折り返しが出来るようにするだけでなく、特急も急行も乗客が増え、20分毎の運転を5分毎にするにしました。枚方市を上回る大きな駅となり、駅上に掲げられた「京阪」の電照看板は、対岸を走るJR、阪急電車からも良く見えます。弟であった阪急京都線に「元気で走っているかい!」と、エールを送っているようです。

酒屋で生きて 生かされて

第五十七話

日本の酒(五)

世界に冠たる酒

前号で「三増酒」や「桶買い酒」のことを書きましたが、もう十数年前から「桶」で売り買ひする蔵は減り殆んどなくなっています。国が酒造米・酒蔵の醸造量制限を外したからです。売る能力のある酒蔵は売れるだけ自蔵、少量でも良い酒を作る蔵も増えて来たのです。「桶売り(OEM)」に重点を置いてられた蔵の転業増え日本酒酒蔵は減りました。そんな今でも「三増酒」より程度の悪い酒は、減少はしていますが売られています。私は酒卸から酒小売に仕事を变えた1973年(昭48)ころから地方の良いお酒を扱ってましたが、冠や鹿正宗の特・一級酒にお客さんが指名買い集まり「地酒」は苦戦でした。級別は味の酒税な差でなく主として酒税額差名(ですが)地方の蔵からはある程度数を仕入れます。今のような保冷库が無くお酒が劣化して捨てることも有りました。

そうしたなか、「民族の酒・日本酒の伝統を守り、良質で旨い酒を愛飲家にお届けしよ

う」と、地方のそうした酒造りをしてる蔵元に呼びかけ、075年(昭50)「日本名門酒会」が出来ました。私どもが仕入れている「地酒蔵」も参加されていたので酒屋の友人の達と早速入会しました。

当初は販売に苦労しましたが友人達と共同でチラシを撒いたり「名門酒を飲む会」を毎年開催。十回目はSBSホールで山崎アナウンサーの司会、ゲスト「いくよくるよ」をお呼びし8百名の「集い」が出来ました。

私も「ビール」にした機会にコンビニ「ファミマ」に業体を変えましたが、今も「名門酒会」の酒に力を入れています。酒類は「醸造酒」

「蒸留酒」「混生酒」の三つに大別されますが、醸造が大元の限界や保存の難しさがあり、醸造し低濃度の生産物を加熱蒸留して造られたものが「蒸留酒」。その蒸留酒をベースに他の物を加えたものが混生酒(リキュール等)です。ですから素材の本来の性質は醸造酒が一番持つて(残つて)います。

今、世界各地で「米食」や「すし」が健康に良いと食べられ日本酒が大人気になっていきます。しかも良い酒(名門酒会)が世界各都市で売られ飲める様になりました。

小惑星イトカワから微粒子を持ち帰ることに成功した探

「蒸留酒」「混生酒」の三つに大別されますが、醸造が大元の限界や保存の難しさがあり、醸造し低濃度の生産物を加熱蒸留して造られたものが「蒸留酒」。その蒸留酒をベースに他の物を加えたものが混生酒(リキュール等)です。ですから素材の本来の性質は醸造酒が一番持つて(残つて)います。

今、世界各地で「米食」や「すし」が健康に良いと食べられ日本酒が大人気になっていきます。しかも良い酒(名門酒会)が世界各都市で売られ飲める様になりました。

小惑星イトカワから微粒子を持ち帰ることに成功した探

日本古代史の謎①

清水克彦

663年に倭国は百濟を滅ぼした。その後も668年に唐の連合軍の攻撃を受けて滅亡した。それ以後も677年に中大兄皇子(後の天智天皇)は百濟復興を目論み27000の大軍を白村江に送った。大敗を喫し百濟救

援のため、国家滅亡の危機を冒して唐・新羅の連合軍と戦ったのは何故か？

663年に百濟は唐・新羅の連合軍の攻撃を受けて滅亡した。それ以後も677年に中大兄皇子(後の天智天皇)は百濟復興を目論み27000の大軍を白村江に送った。大敗を喫し百濟救

「蒸留酒」「混生酒」の三つに大別されますが、醸造が大元の限界や保存の難しさがあり、醸造し低濃度の生産物を加熱蒸留して造られたものが「蒸留酒」。その蒸留酒をベースに他の物を加えたものが混生酒(リキュール等)です。ですから素材の本来の性質は醸造酒が一番持つて(残つて)います。

今、世界各地で「米食」や「すし」が健康に良いと食べられ日本酒が大人気になっていきます。しかも良い酒(名門酒会)が世界各都市で売られ飲める様になりました。

小惑星イトカワから微粒子を持ち帰ることに成功した探

「蒸留酒」「混生酒」の三つに大別されますが、醸造が大元の限界や保存の難しさがあり、醸造し低濃度の生産物を加熱蒸留して造られたものが「蒸留酒」。その蒸留酒をベースに他の物を加えたものが混生酒(リキュール等)です。ですから素材の本来の性質は醸造酒が一番持つて(残つて)います。

今、世界各地で「米食」や「すし」が健康に良いと食べられ日本酒が大人気になっていきます。しかも良い酒(名門酒会)が世界各都市で売られ飲める様になりました。

小惑星イトカワから微粒子を持ち帰ることに成功した探

査機「はやぶさ」を造った日本の技術力は、米と水と麹で「日本酒」を造る技と「根は一つ」です。モットモット多くの国の人々が飲み、日本酒は近い将来「世界に冠たる酒」となると信じています。

そのためには、日本の米づくりをまもり、良い水の源である山や森を保護する林業を守り、飲む人、造る人たちが幸せに暮らせる平和な日本でありたいと思うのです。ま

お詫言
今月12月号は、決算と色々
と手の離せない事が重なり
「とんからりん」の出来上が
りが数日遅れてしまいました
平にお許しください。
編集者 酒谷義郎

大陸諸国と日本国の絡み、付き合ひの難しさは今問題になっていますが、それは今に始まった事ではなく古代から存在したもので



とんからりんの読者で編集者が
永年お付き合いをして頂いている
清水克彦様(有・清水保険事務
所取締役)からご投稿を戴き一年
間連載の予定で掲載致します。

編集後記

「とんからりん」
今月で135号。1号は1995年(平7)五月で、14年余も続けたことになる。
途中四ヶ月休んだが最近
は月刊にしている。当初ダイレクト登録の方に配布したので軽く千部を超えた。
名簿には、お顔を知らない方、極たまにしか来られないも届け逆効果や誤解が生じることが再々起こった。
そこで毎年3月更新で年会費「200円を」損になら
ない対策し、会員登録を下
さった方に配布している。
当然配付先(会員様)は減つ
た。そして毎年4月に減り
前年数に戻るのには年末頃
なる。(今年はマダ前年割れ)
近頃は大型店だけでなく
至るところで「会員募集」
し会費も無料でポイントサ
ビスが大流行。
「何処の誰」は関係なし
に「友の会員」になれる。
見境無にダイレクト・ネッ
トで物売るシステム。
そんな「底引き網商法」
は性に合いません。お顔や
など判り付き合つた下さる
方にお引き立てを戴きたい。
米・酒屋は昔はお家のお
台所まで気軽に出入り出来
ました。信用が有ったので
す。「会員さん」は信用し
て下さる方と思っています。